

中川俊男氏の体制「もう持たぬ」 日医会長選へ出馬断念、その背景

2022/5/20 毎日新聞



岸田文雄首相との意見交換を終え、記者団の質問に答える日本医師会の中川俊男会長＝首相官邸で2022年2月17日午前11時57分、竹内幹撮影

新型コロナウイルスのパンデミック（世界的大流行）下、医療界の代表として発信を続けてきた日本医師会（日医）の中川俊男会長（70）が、6月25日に実施される次期会長選への立候補を断念した。政策通として知られ、「政権にも是々非々で対峙（たいじ）する」との姿勢が支持された日医きっての論客は、なぜわずか1期（2年）で会長職を手放すことになったのか。

「GoTo トラベルから感染者が急増したというエビデンス（科学的証拠）ははっきりしないが、きっかけになったのは間違いない」。2021年11月18日の定例記者会見で、中川氏は舌鋒（ぜっぼう）鋭く持論を展開した。感染拡大の兆しがあるたびに危機感を示し、時には旅行需要喚起策「GoTo トラベル」など政府の政策を批判したり、緊急事態宣言の発令を求めたりする姿はメディアを通じて国民に広く知られるようになった。

このような「モノ言う姿勢」が支持され、日医会長に選ばれたのは2年前の20年6月だ。安倍晋三首相や麻生太郎財務相ら当時の政権中枢と関係が良好で「調整型」とされた横倉義武前会長との一騎打ちとなり、組織を二分する激しい争いを制した。選挙戦でアピールしたのは、官僚や与党と対決も辞さない姿勢だ。

かつて長期間にわたって日医会長を務め、「けんか太郎」とあだ名されるほど厚生行政に意見を反映させた武見太郎氏の姿に重ね合わせる医師会員もいたとされ、支持を集めた。当選が決まると中川氏は「国民の健康と命を守るためならどんな圧力にも決して負けない、物を言える新しい日本医師会に変える」と語った。

一方で、感染拡大当初を中心に、発熱外来やコロナ病床を設けることに消極的だった民間病院が少なからずあり、医療界に対する国民の風当たりが強くなった。定例の記者会見で国民に感染予防を訴えているのに、「まん延防止等重点措置」の期間中に国会議員のパーティーに参加したり、私的な会食をしていることが週刊文春で明らかになるなど、行動を疑問視されることもあった。その「言行不一致」に批判が高まり、「会見のたびにこの会長で大丈夫なのか、という声が医師会内でも増えていった」（地方医師会の幹部）という。

医師会内で中川氏への不支持が決定的となったのが、昨年末に決定した22年度診療報酬改定の中身だった。診療報酬改定の改定率は、引き上げれば医療機関の売り上げは増え、経営状況に直結するため、日医会長の「最大の仕事」とされる。厚生労働省や財務省、首相官邸のみならず、自民党厚生労働族議員との交渉を経て決まり、政権与党との「パイプ」がものを言う。

しかし、中川氏は横倉前会長時代に副会長を務めていたが、日医の要望を厚労省の審議会などの場で舌鋒鋭く突きつけ、「ケンカを売ってくる」（日医幹部）という役割を果たしてきたため、永田町や霞が関とのパイプは乏しかった。診療報酬改定でも中心的な役割を果たした自民党厚労族議員は「日医が何を求め、どうしたいのかが全然分からなかった」と不信感を募らせ、**厚労省幹部も「日医のためではなく、コロナの医療に携わった人のためになる改定にしたい」と述べていた。**

最終的に診療報酬の改定率は、「本体部分」を0.43%引き上げることで決着した。ただ、日医の執行部内でさえ「会長がはっきり何をしたかはわからない」という声が漏れたほど。最終盤で医療費を圧縮するため導入が決まった「リフィル処方箋」は、政府内でひそかに浮上していた動きを中川氏は察知していなかったとされる。「リフィル処方箋」は一定期間内に繰り返し薬局で薬を受け取ることができる制度で、受診回数の減少に直結するため、日医としては長年反対してきた代物だ。「本体部分」の引き上げをアピールしたものの、日医内部で中川氏の手腕への疑問が広がり、反発がより高まっていった。

中川氏は4月下旬、地元の北海道新聞に再選への意欲を語ったが、その後、事態は急速に変化していった。「もう中川体制では持たない」。前回の会長選で中川氏の後ろ盾になった埼玉県医師会が中心となり、現職の日医常任理事である松本吉郎氏（67）を擁立する方向になった。会長選は各都道府県医師会の会員数に応じて算出される代議員の投票で決まるため、各地の医師会の支持を集めなければならない。日医幹部の一人は5月中旬の取材に「中川氏を支持する医師会は、地元の北海道とあとはほんのわずかだけ」と答えるほど、中川氏は追い込まれていた。

「何とかありませんか」。頭を下げに来た中川氏に、日医関係者は「会長として日医の運営をちゃんとしなかったからだ」と突き放したという。大栗田で前回支持を得た東京都医師会の尾崎治夫会長からも支持しない意向を伝えられ、不出馬への決定打となった。

会長選が公示された20日午前、中川氏はこれまでの新型コロナウイルス対策を検証する政府の有識者会議にヒアリング対象者として出席した。午前11時すぎに会場から退出する際、記者からの取材の要請には応じず歩き続け、「立候補は届け出たのか」と聞かれると「忙しいから」と述べたほかは押し黙ったままだった。【神足俊輔、原田啓之】